

3章 「科学する心を育てる」創意・工夫

子どもたちの「科学する心」を育てるために、各園でさまざまな創意・工夫が生まれました。第3章では、各園のキラリと光るアイデアを紹介します。いろいろな事例や工夫を、ぜひ皆様の園の「科学する心を育てる」実践に活かしていただきたいと思います。

1. 自然に親しみ「不思議に思う」気持ちを育成する -色サイコロを使って- 札幌わかくさ幼稚園（北海道札幌市）

「不思議に思う」気持ちは事物の存在や現象に気付くことから始まる。自然認知能力は自然の中で夢中になって遊ぶ工夫をすることにより、子どもの好奇心のおもむくままに、自然に高まる。目ざとく虫や草花を見つけたり、前日雨が降らなかったのに草がぬれていることに気づいたり、四季の移り変わりなど、発見や疑問、感動や驚き、活動する楽しさや喜びを通して、事物の性質に興味・関心を持つようになる。この興味・関心が五感・直感・感性を豊かにするのである。

色サイコロを使って、野原を探索する

自由に咲いている花を見つけるより色サイコロで出た花の色を探す方が意識的になる。色サイコロに出た色の花を画用紙に色付けすると更に集中し楽しそうである。前回なかった青みがかった花を見つける喜びは意識的に物を見ているからである。花の色の面的広がりや量・同じ色でも違う種類の花があることの気付きは色サイコロを使った花探しに更に画用紙に色づけすることによって、物の存在の認知を意識的、集中的に見る初歩的なものである。

—事例より—

初夏の草原は、夏草の匂いがむせ返るようにします。保育者が30cm³の色サイコロを出しました。サイコロで出た色の花を画用紙に色付けをしながら、草原の中を探して歩いていると草の実が服に付いたり、虫が付いたりする。(中略)

「ここで一番多い花は何色ですか」白・黄・赤と多い順に言っている。「白い花で違う花がいくつありましたか」「3つ」フランスギクとノコギリソウとシロバナシナガワハギである。「黄色は」「3つ」タンポポドキ、カタバミ、シナガワハギである。シナガワハギとシロバナシナガワハギを見比べる。

—事例より—

6月23日での花の色探しサイコロで青い花がなかったが今回は、クサフジを見つけ「青い花あった」と喜んでいました。

9月15日の花探しでは、すっかり草原の様子が変わり、全体が茶褐色がかっていて、セイタカアワダチソウ、ウサギキク、ヤマハハコ、ヒメジョオン、ゲンノショウコの色を画用紙につけました。ヤマハハコはなかなか色がつきませんでした。



ポイント

いつも同じ自然と向かい合っても、意識が向かないと気づかないこともあります。子どもたちがより「不思議」に出会えるように、色サイコロを活用している事例です。色に注目して、事物の性質に気づくのはもちろんのこと、「色」を通して、日々変化する自然の様子を感じることもつながっています。